

大草谷津田いきものの里 自然観察会 里山の伝承文化にふれよう

山岸文子（千葉市）

日 時：2015年1月18日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：大人16名 子ども2名

担当指導員：芳我めぐみ・山岸文子

2015年最初の観察会。寒さにも拘わらず今年も俳句をたしなむご夫妻が来て下さった。昨年の『おびしや祭り』ではご主人の矢が見事に的命中。奥様の矢が大賞を射止めた話を披露する。 **一番矢的貫けりびしやまつり**

いつもの「いきもの」の話から離れ、今日は大草町に伝わる伝統行事『おびしや祭り』を中心に古くからの文化と民俗を訪ねて歩く。駐車場そばの馬頭観音を見る。安永四年（1775年）の文字が読み取れる。この辺では最古の石碑。今でも地元の人々が花を絶やさない。

住宅地を歩いて八幡神社の鳥居跡へ案内する。4年前の大地震で大きな石の鳥居は失われてしまった。鳥居の語源を説明する。鳥は神の使いであり化身であると考えられていた。笠木に沢山の鳥が止まった形の門（東南アジア中国国境）頂上に鳥が止まった姿をした高い棒（朝鮮半島）の写真を示し、稻作文化と共に大陸から伝來したとする説があると話す。山も森も雷もかつては畏れの対象だった。すべての物に靈魂が宿るという思想があった。イネの原産地の東南アジアも東アジアも多神教の地域である。遠い昔、私達の祖先は稻作文化を手に入れた。同時に大陸由来の民俗信仰も受け入れられ、この土地に合わせて独自の形で受け継がれてきたのではないだろうか。

千葉では多く見られる『くれまぶれ』、新年にあたって穢れが入らぬように土地の境界に立ててある。参道を通り神社へ。八幡さまは地元の氏神様である。赤い鳥居に注連縄がゆるやかに波打つように取り付けられている。参加者に何を連想するか質問。一斉に「ヘビ!!」蛇は雨水を司る龍と同一視される事があり、稻を食害するネズミを駆除するので稻作の守り神とされる。希望者だけ参拝。境内に支度された『おびしや』の的、弓、矢を見せて頂く。何もかも手作りで当番の人が大変な苦労をして用意する。希少な文化財を守り継がねばならない。

『おびしや』は御日射、御陽射と書き去年の古い太陽を射落して新しい太陽を迎えるという朝鮮半島の風習に因む。一方流鏑馬に対し、人が立って射るので御歩射の字をあてる場合もある。一年を平穏と豊作を願う正月の行事。今年も見学を許して頂いた。

鎮守の森は多様な生き物を育む場所となっている。スダジイの葉が虫に食べられ綺麗なレースのようだ。

鳥居跡から少し歩くと石段へ出る。八幡神社参拝の為に造られた石段で、下の方には昔からの住宅と水田が拡がっている。1500年程前に稻作が始まったと聞いた。

山道の途中、参加者がヒミズの死骸を見つけた。大草ではカヤネズミの次に小さな哺乳類。俳句の好きなご主人に「日不見」と書くと教わった。

正午から始まる『おびしや祭り』に遅れないよう早めに駐車場へ戻る。案内版を指して今日は時間の都合で行けなかったが、行人塚や馬頭観音等の大草周辺に点在する石碑について話す。それぞれ地元の人々に大切に祀られている。心優しい人たちの先祖代々の財産（土地）をお借りして「大草谷津田いきものの里」がある。

殆どの参加者が『おびしや祭り』を見学した。素朴で厳かな儀式。戴いた御神酒を駐車場に持帰って撒いた。今年も平穏な「いきものの里」でありますように。無事故で観察会ができますように。